

ローヤルニュース

No.137

発行 ローヤル油機株式会社 2006年2月25日

〒979-0202 福島県いわき市四倉町上仁井田字家ノ前 107-4 TEL.0246-32-6657 FAX.0246-32-6658

Eメールアドレス GSP00013@nifty.com

HPアドレス <http://homepage1.nifty.com/loyal/>

【コスモ・ワイドグリースWR - 2 , 3】 - コスモ石油

1. 特徴：特殊ナトリウム化合物を増ちょう剤にした高温長寿命・軸受け音響性に優れた製品である。
2. 用途：-40～150 の幅広い温度範囲で長期間使用する高速回転機の軸受けに最適である。
3. 指定：F種以上の電動機の軸受けに最適で、日立モーターのベアリングに指定されている。
4. 容量：ジャバラ式（400g×20本、400g×5本） 缶入り（2.5kg缶、16kgP/L）

LOYAL物語 30

第八成田丸は、エンジンをフル回転させ、船体を激しく上下に揺すりながら波飛沫を上げ、全速力で一直線に根室港を目指した。

連絡を受けた根室港では、直ちに救急車が手配され、着岸と同時に健次郎君は根室総合病院に搬入されて行った。

最初の診断では、急性の胃潰瘍ということで一週間も入院治療すれば治るでしょう、と言うことだった。四倉の家族の元にも電話で連絡されてきて、皆一様に安堵した。

しかし、昼近くになって更に激しく吐血したため、医療学会出席のため飛行機で東京に向かっていた外科担当の医師を、急遽羽田空港でＵターンさせ緊急手術に備えることになった。

その間、妻の志津さんは4人の幼子を祖父母に預け、夜行列車と青函連絡船を乗り継いで北海道に渡り、一人列車に揺られながら根室の病院に向かっていた。当時、四倉駅から北の果ての根室駅までは、汽車と連絡船で24時間の長旅だった。車中での孤独で長い時間は、どれほど彼女の心を不安に眠れぬ思いにしたのだろうか。

『 第八 成田丸 14 』

彼女が病院に着いたときには、最初の手術が終わっていた。病院では、担当医が到着すると直ちに手術が施された。しかし、開腹してみると、最初の所見の急性胃潰瘍とは違って、大動脈破裂という重大なものであった。

北の果ての病院には、この重大な手術を成功に導ける医者も居なかった（事実、手術担当は台湾から来ていた医者だった。）し、その手術に対する十分な医療設備も整ってはいなかった。

2回目の手術の後も、下血が続いた。志津さんから、私に電話が入った。

「健次郎さんは、だめだわ」

とひと言、腹の底から搾り出すように、静かな声で呟いた。

受話器を握る手が振るえ、頭の中が真っ白になっていった。

「みんなに慕われ、事業半ばの健次郎君が、何故…逝かなければならない」

10月5日、志津さんの見守る中、病院のベッドの上で、断腸の思いのまま静かに息を引き取った。享年35歳の若き死であった。

それから2年後、第八成田丸もまた彼の死を追うように、北海道・釧路港に停泊中火災事故を起し、冷たい北の海に沈んでいった。完了。

あとがき

今回を持ちまして「第八 成田丸」は、完了いたしました。長い間ご愛読いただきましてありがとうございました。柴田健次郎（本名：塩田凶南男）君は、人生を語り合える最高の友人であり共に事業を志した最大のライバルでもありました。“人生、意気に感ず” 彼が私に残してくれた言葉です。

次号からは、私の学生時代を綴った「高崎物語」を掲載していく予定です。またよろしくネ。